宮城県周産期医療機能調査結果について

＜目次＞

1. 調査概要　・・・３
2. 周産期医療提供体制　・・・４～１１
3. 妊娠22週以降の診療実績　・・・１２～２８
4. 救急搬送　・・・２９～３０
5. 産科混合病棟の現況　・・・３１
6. 助産師外来・院内助産　・・・３２
7. 妊婦健診施設の診療実績　・・・３３

1．調査概要

（1）調査目的

国の「周産期医療の体制構築に係る指針」に基づき、県内の周産期医療体制の現状を把握し、統計資料としての活用や施策検討の基礎資料とする

（2）調査対象施設

① 分娩取扱施設　31施設
② ①以外の妊婦健診施設　51施設

} 82施設（R8.4.1現在）

（3）調査内容

① R8.4.1現在の病床数、従事者数等
② 令和7年（R7.1.1～R7.12.31）の診療実績　など

（4）回収率

91.5%（75/82）
①分娩取扱施設　100%（31/31）
②妊婦健診施設　86.3%（44/51）

2．周産期医療提供体制

（１）分娩取扱施設・産科病床数の年比較（各年4月1日時点）

➢ 令和8年は、みやぎ県南中核病院の分娩再開に伴い、分娩取扱施設が1施設、産科病床数が16床増加

分娩取扱施設数（施設）				産科病床数（床）		
区分	令和7年	令和8年	増減	令和7年	令和8年	増減
総合・地域周産期母子医療センター	9	9	-	267	272	5
病院	4	5	1 ※	78	89	11
診療所	14	14	-	229	229	-
助産所	3	3	-	10	10	-
計	**30**	**31**	**1**	**584**	**600**	**16**

※：みやぎ県南中核病院

2．周産期医療提供体制

（2）周産期母子医療センター病床数・病床稼働率比較(各年4月1日時点)

- 令和8年は、NICU1が3床増加し、GCUが6床減少。
- 病床稼働率は、GCUが5.8ポイント上昇する一方、NICU1は3.6ポイント低下しています。

1　病床数

病床区分	令和7年（床）	令和8年（床）	増減
MFICU	18	18	-
NICU1	39	42	3
NICU2	21	21	-
GCU	70	64	-6

2　病床稼働率

病床区分	令和7年（%）	令和8年（%）	増減
MFICU	68.8	68.3	-0.5
NICU1	95.8	92.2	-3.6
NICU2	56.6	56.2	-0.4
GCU	61.7	67.5	5.8

※ 病床稼働率は、総合・地域周産期母子医療センターの平均値。増減はポイント差。

※NICU1：新生児特定集中治療室管理料１
※NICU2：新生児特定集中治療室管理料２

2．周産期医療提供体制

（3）NICU・GCU病床数の適正化に関する調査結果

加算病床を有する周産期母子医療センター7施設を対象に調査

- **全施設がNICU病床数を「適正」と評価し、GCUを保有する5施設も全て「適正」と評価。**
- **病床規模については3施設が見直しの検討又は削減予定と回答。**

評価項目	適正	過剰・不足	未回答	回答施設数
NICU病床数	**7**	0	0	7
GCU病床数	**5**	0	0	5

見直し意向	施設数	構成比
現状維持	4	57%
今後検討が必要	2	29%
削減予定・検討中	1	14%

2．周産期医療提供体制

（４）分娩取扱施設に従事する職員数の比較

- 令和8年は、産婦人科医及び新生児を担当する小児科医が微増し、新生児科医及び助産師が微減
- いずれも県全体では前年度とおおむね同水準

職種・勤務形態	令和7年	令和8年	増減	増減率
産婦人科医	140.6	141.6	+1.0	+0.7%
新生児科医	23.0	22.0	-1.0	-4.3%
小児科医（新生児担当）	81.1	81.6	+0.5	+0.6%
助産師	582.7	580.4	-2.3	-0.4%

※ 医師数は、常勤・非常勤（常勤換算）・専攻医の合計。

※ 助産師は、常勤・非常勤（常勤換算）の合計。

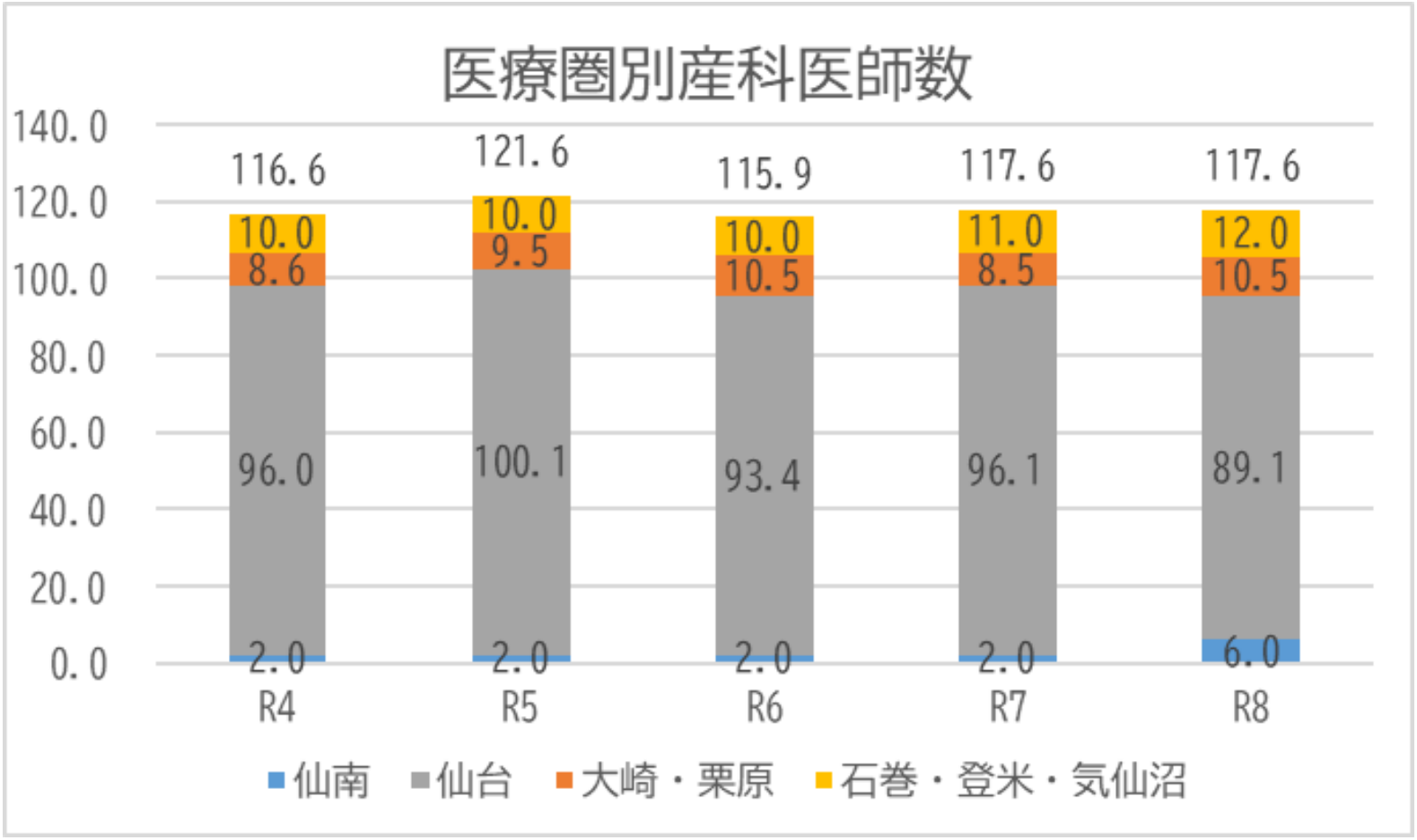
※ 新生児科医は、県保健福祉部調査結果。

2．周産期医療提供体制

（5）産科・産婦人科医の推移

- 令和8年の産科・産婦人科医は117.6人で、令和7年と同数
- 医師数は年による増減があるものの、近年はおおむね115人から120人台で推移

常勤・非常勤（非常勤は常勤換算）　　（単位：人）

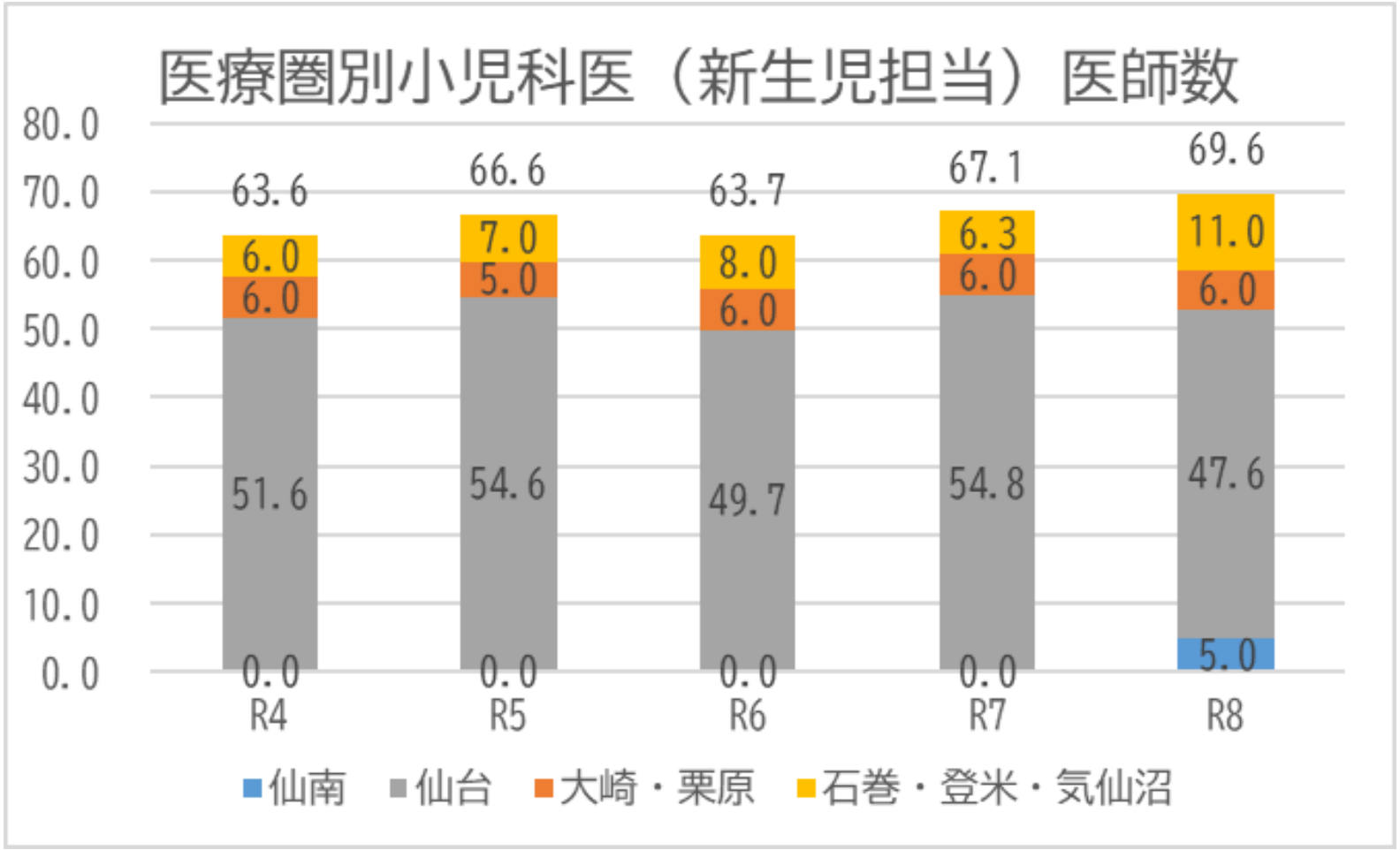


2．周産期医療提供体制

（6）小児科医（新生児担当）の推移

- 令和8年の新生児を担当する小児科医は69.6人で、令和7年から2.5人増加
- 年による増減はあるものの、令和3年以降はおおむね増加傾向で推移

常勤・非常勤（非常勤は常勤換算）　　（単位：人）

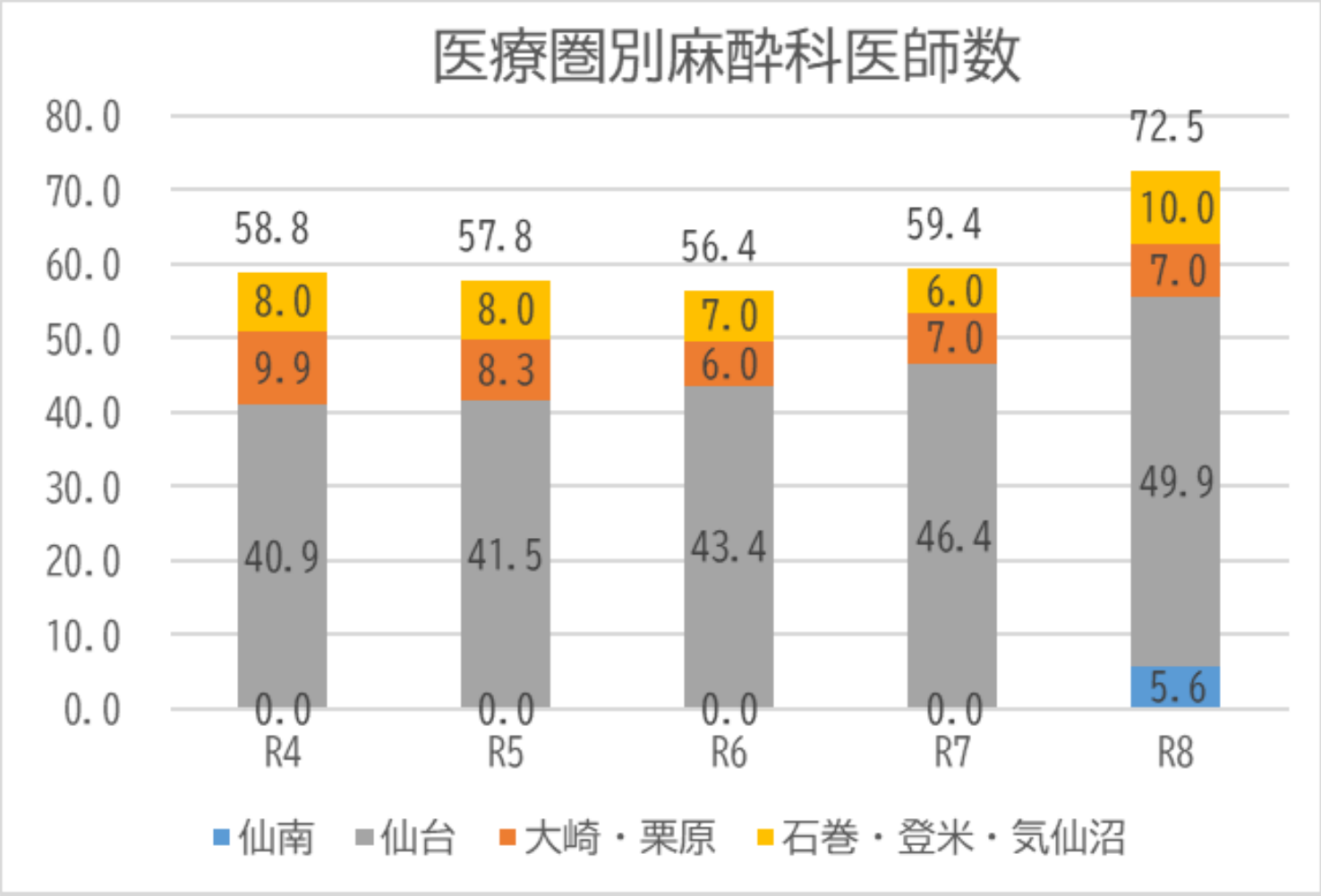


2．周産期医療提供体制

（7）分娩業務を担当する麻酔科医の推移

- 令和8年の分娩を担当する麻酔科医は72.5人で、令和7年から13.1人増加

常勤・非常勤（非常勤は常勤換算）　（単位：人）

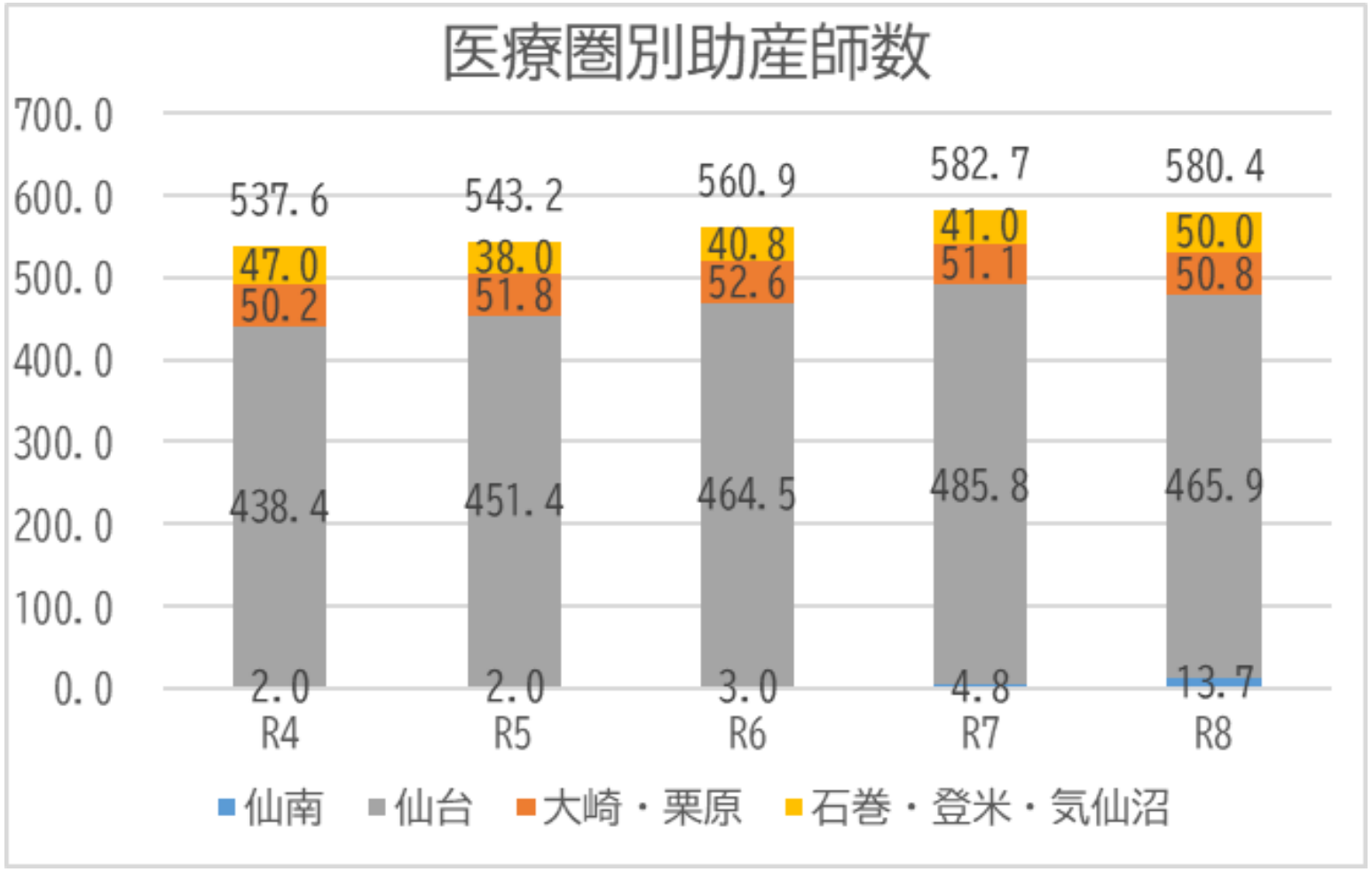


2．周産期医療提供体制

（8）助産師数の推移

- 令和8年の助産師は580.4人で、令和7年から2.3人減少
- 令和4年以降は増加基調で推移しており、令和8年も令和7年とおおむね同水準

常勤・非常勤（非常勤は常勤換算）　　（単位：人）

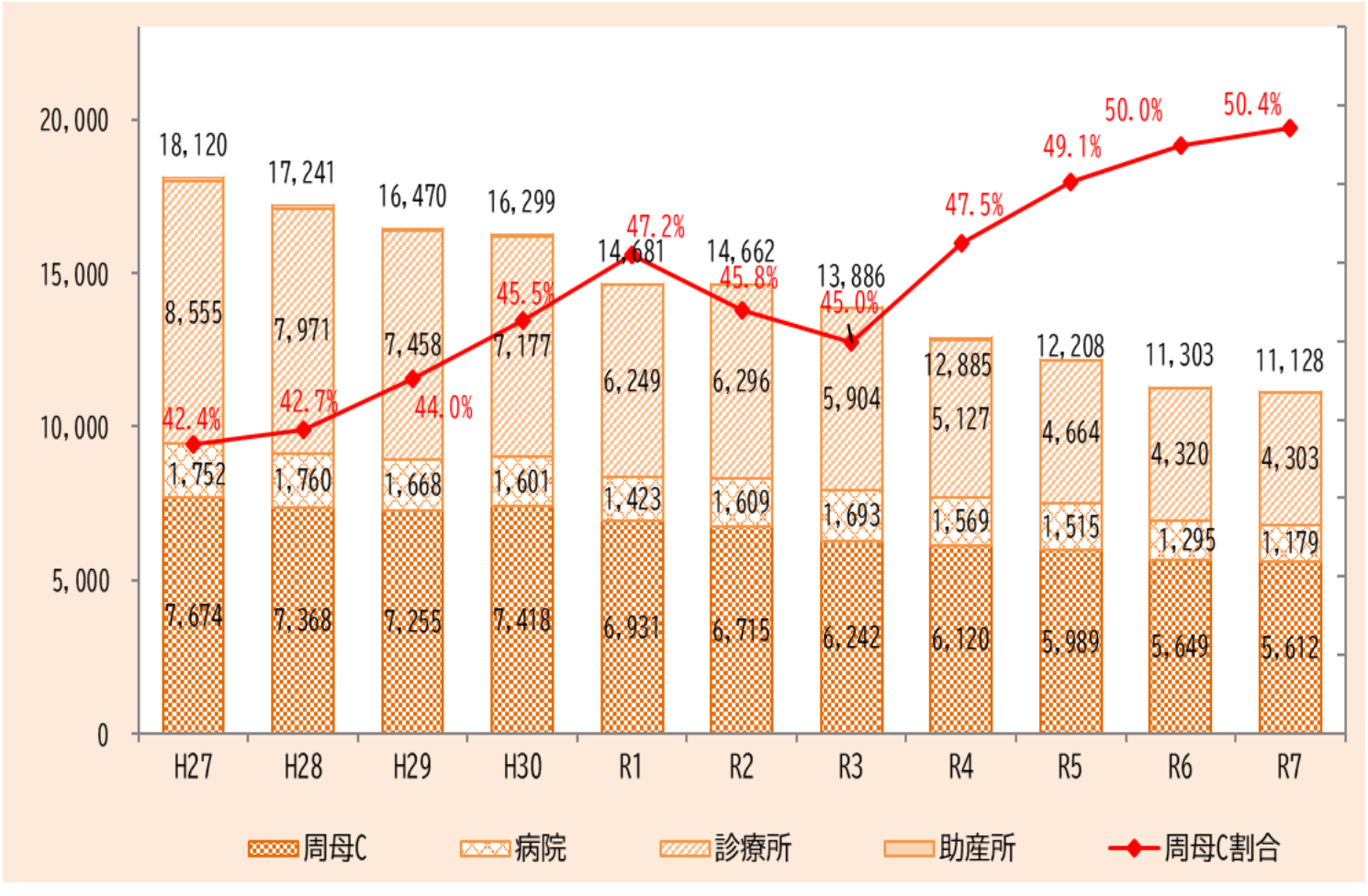


3．妊娠２２週以降の診療実績

（１）分娩件数及び無痛分娩件数

- 分娩件数は減少が続き、令和7年は11,128件で、前年度から175件減少。周産期母子医療センターの占める割合は上昇。
- 無痛分娩は729件で、前年度から164件増加し、実施率は5.0%から6.6%に上昇

分娩件数の推移



無痛分娩件数の推移

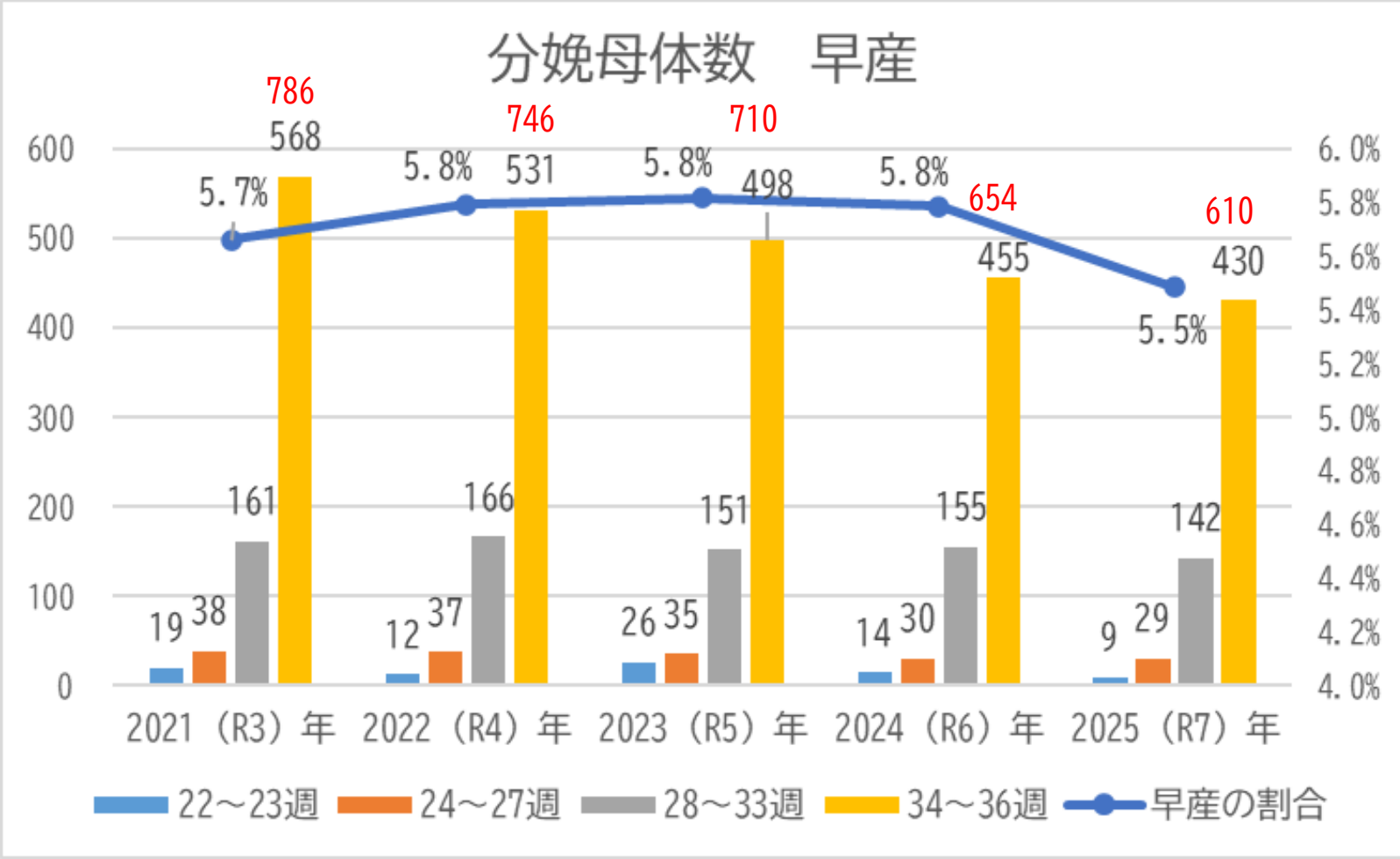
年度	分娩件数	無痛分娩件数	実施率
R6	11,303件	565件	5.0%
R7	11,128件	729件	6.6%

※R6結果から調査

3．妊娠２２週以降の診療実績

（２）分娩件数（母体数）【在胎週数別】早産

- 令和7年の早産件数は610件で、前年から44件減少
- 早産件数は減少傾向にありますが、全分娩件数に占める割合は5%台で推移

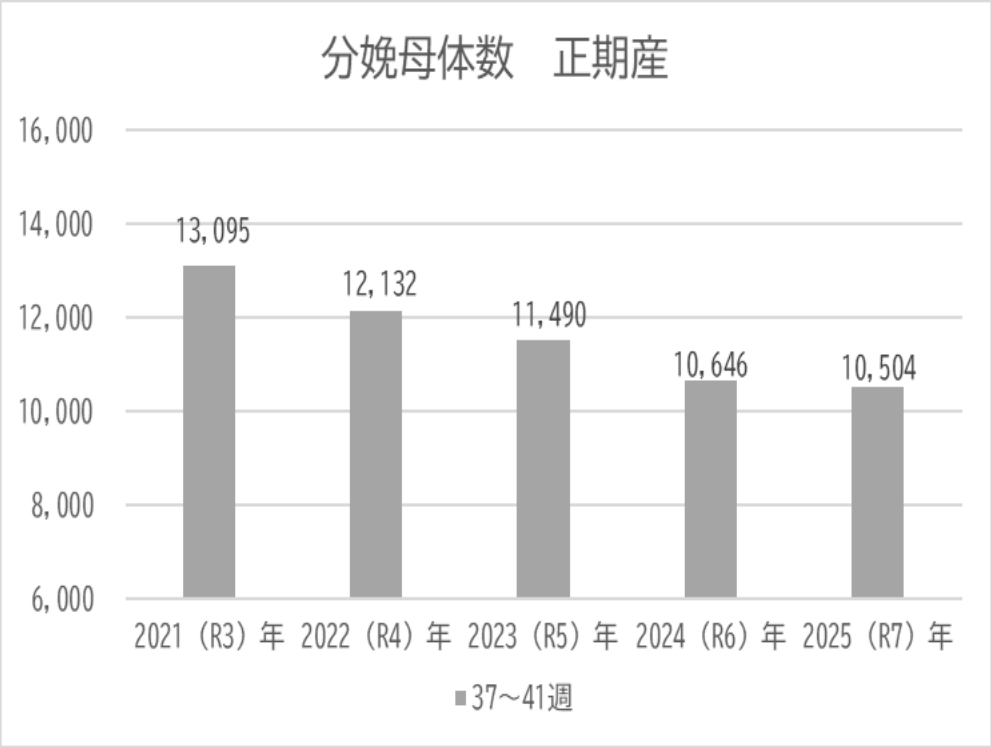


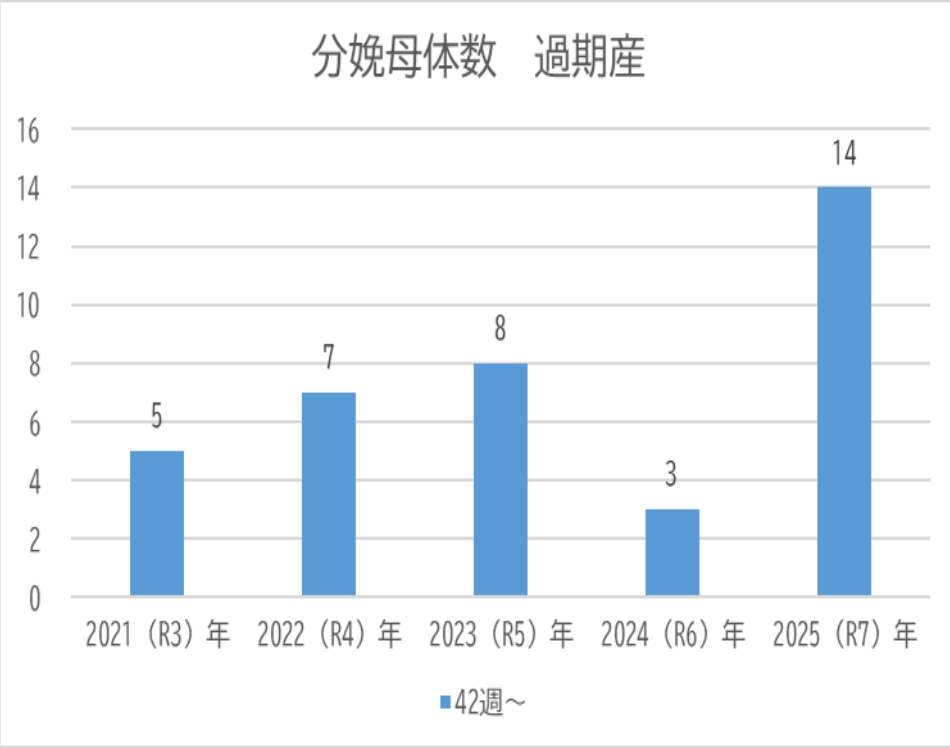
※赤字は早産件数の合計

3．妊娠２２週以降の診療実績

（３）分娩件数(母体数)【在胎週数別】正期産・過期産

- 正期産は減少が続き、令和7年は10,504件で、令和3年から2,591件減少
- 過期産は14件で、件数は少ないものの年による変動がみられる

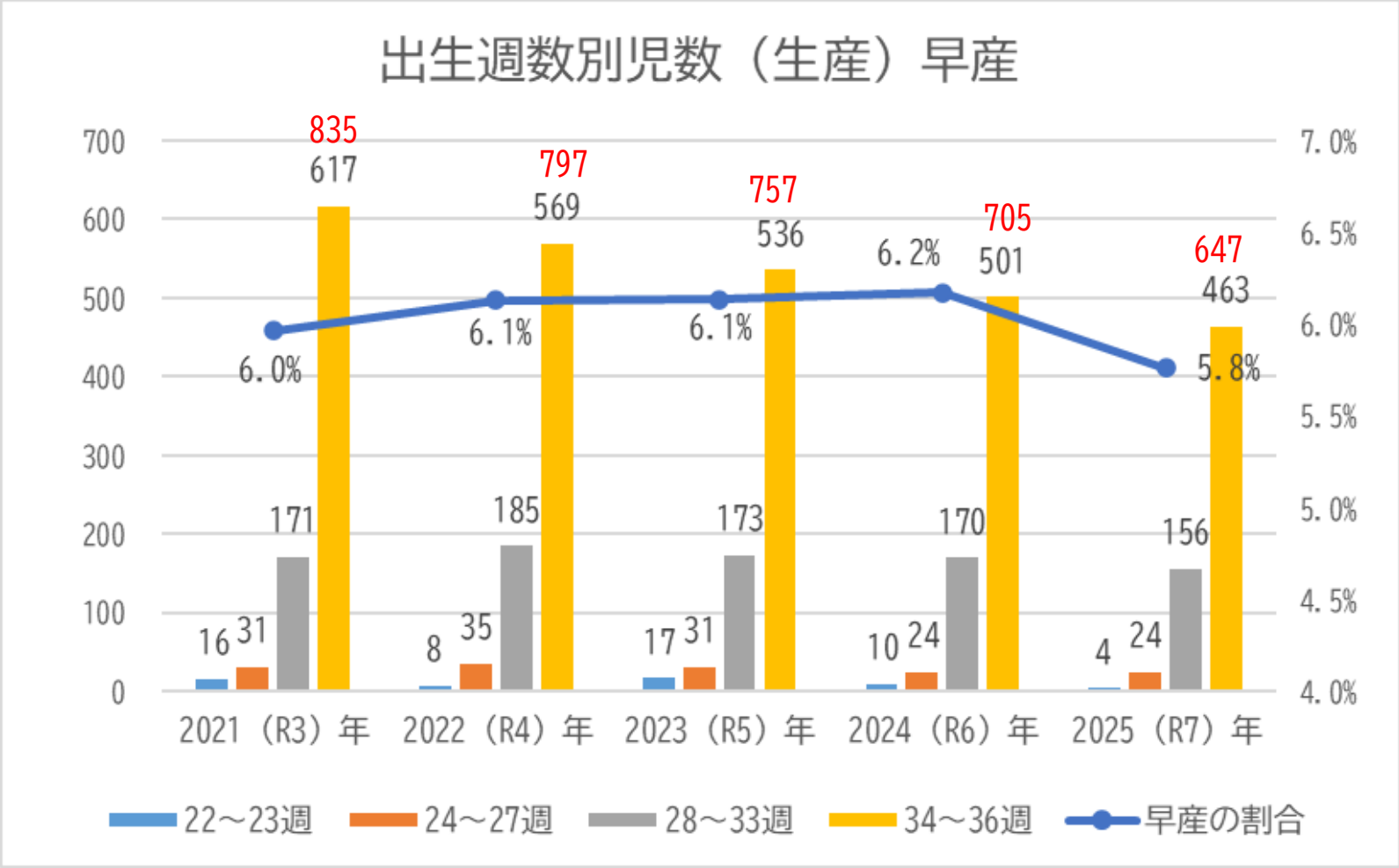




3．妊娠２２週以降の診療実績

（４）出生週数別児数（生産）早産児

- 令和7年の早産児数は647人で、前年から58人減少
- 早産児数は減少傾向にあり、全生産児数に占める割合は5.8%

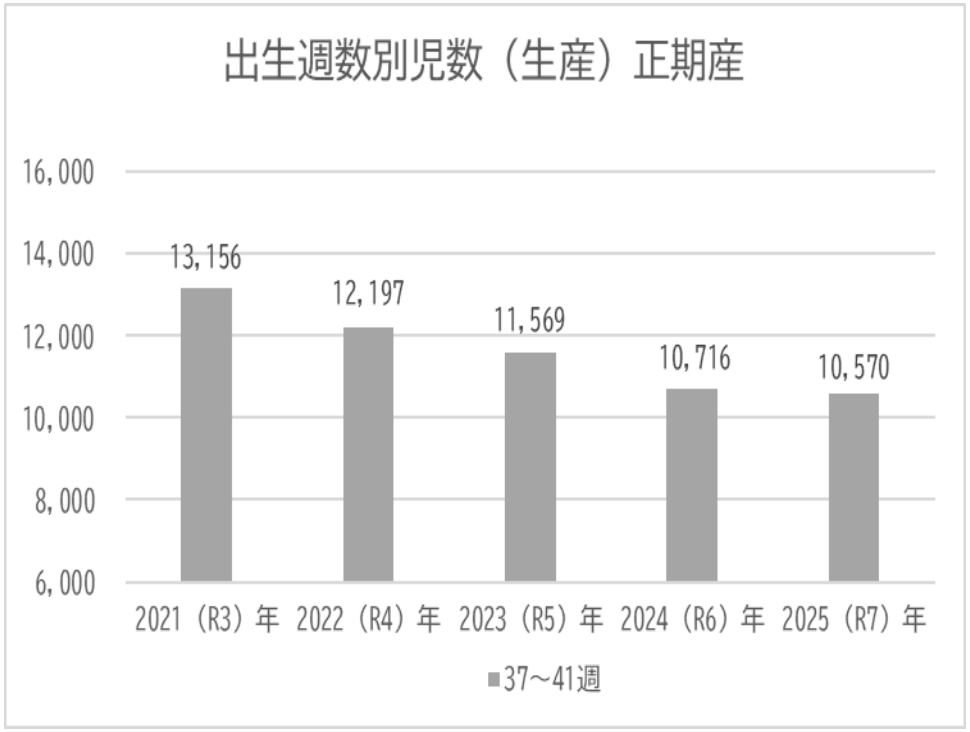


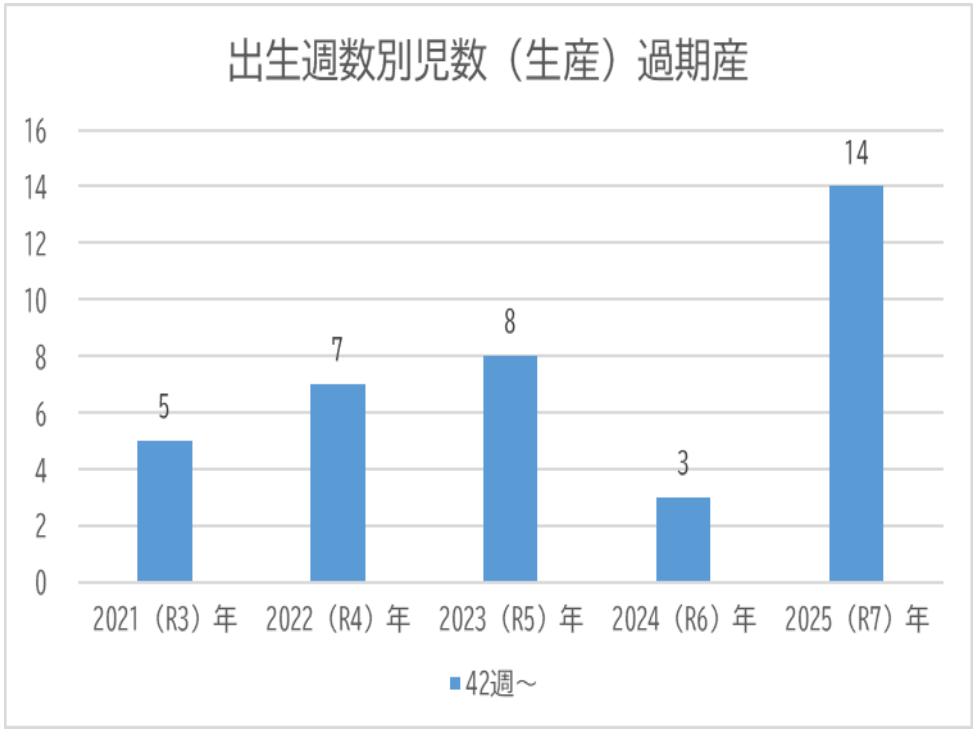
※赤字は早産児数の合計

3．妊娠２２週以降の診療実績

（５）出生週数別児数（生産）正期産・過期産

- 正期産児は減少が続き、令和7年は10,570人で、令和3年から2,586人減少
- 過期産児は14人で、件数は少ないものの年による変動がみられる

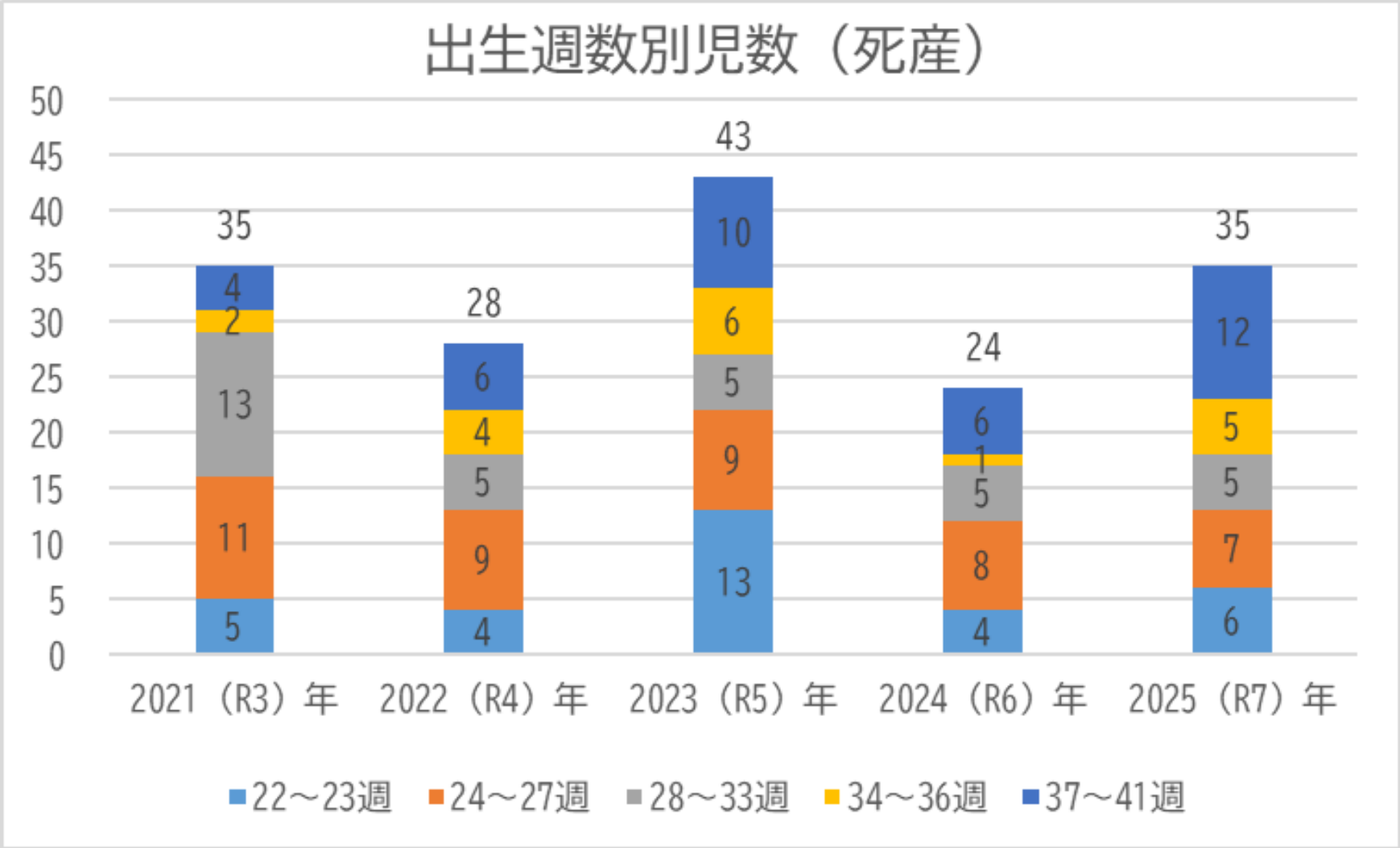




3．妊娠２２週以降の診療実績

（６）出生週数別児数（死産）

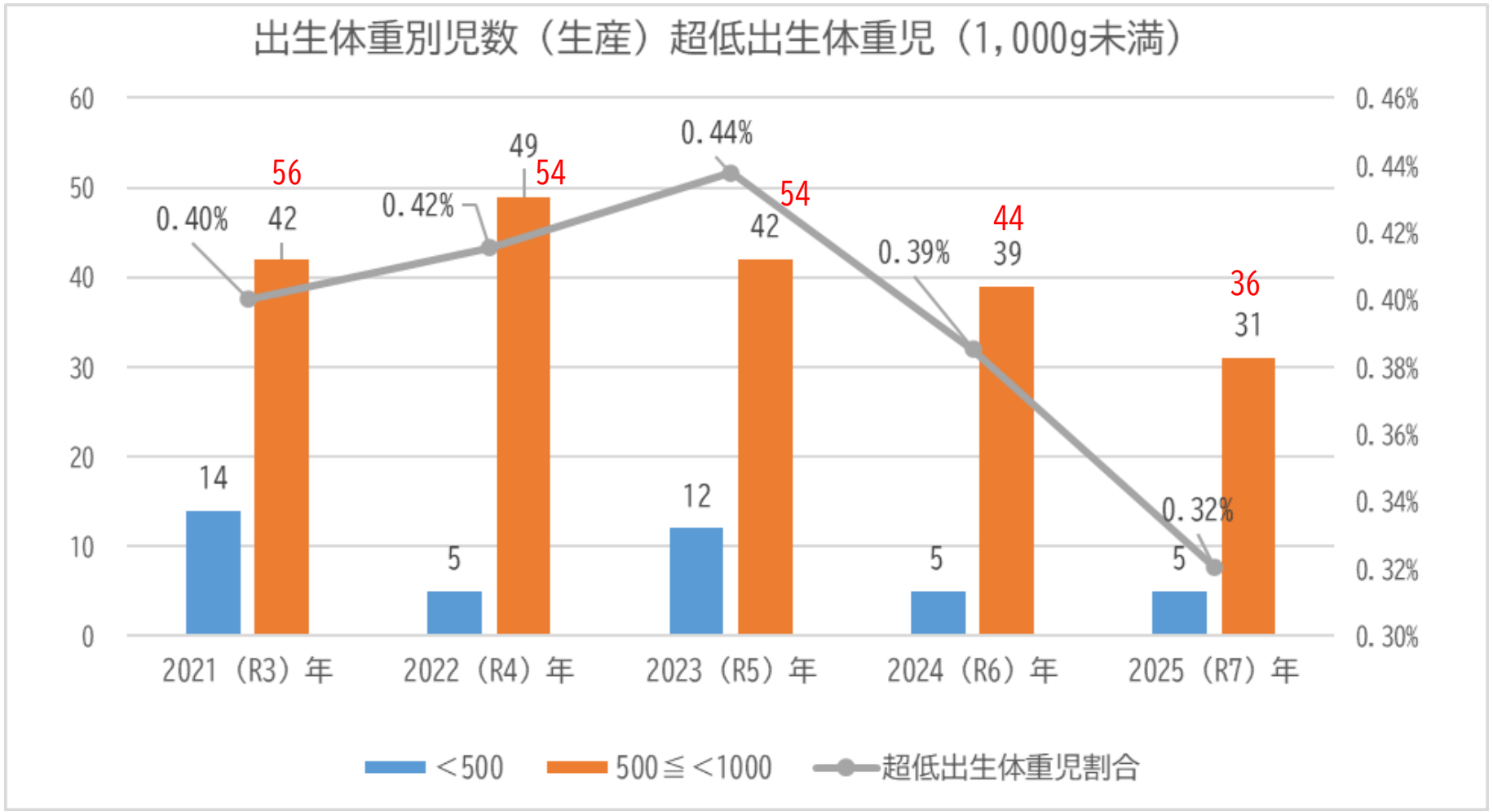
- 令和7年の死産数は35人で、前年から11人増加
- 死産数は年による変動が大きく、一定の増減傾向はみられない



3．妊娠２２週以降の診療実績

（7）出生体重別児数（生産）超低出生体重児

- 令和7年の超低出生体重児は36人で、前年から8人減少
- 年による変動はあるものの、令和3年以降はおおむね減少傾向

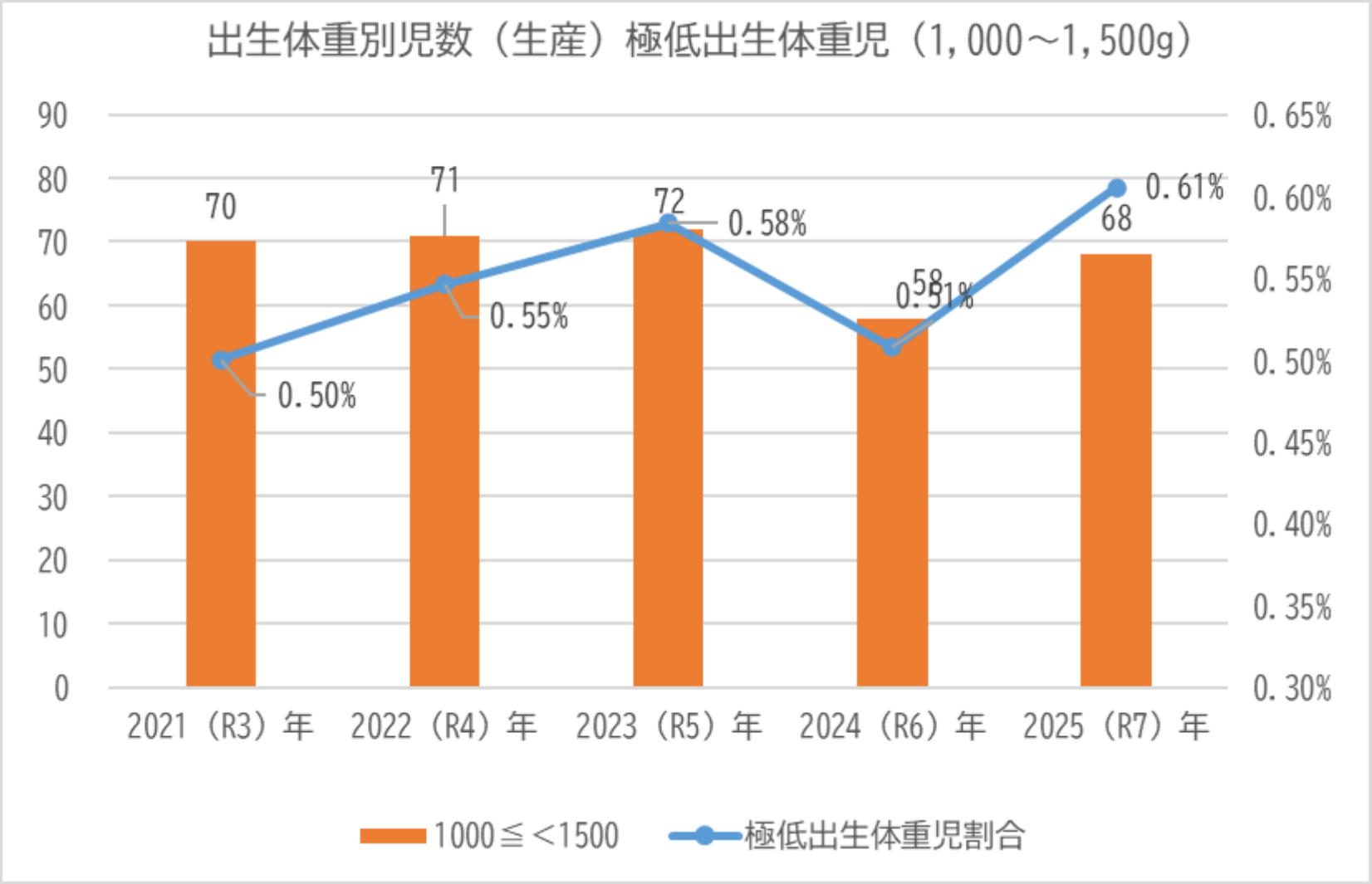


※赤字は超低出生体重児の合計

3．妊娠２２週以降の診療実績

（８）出生体重別児数（生産）極低出生体重児

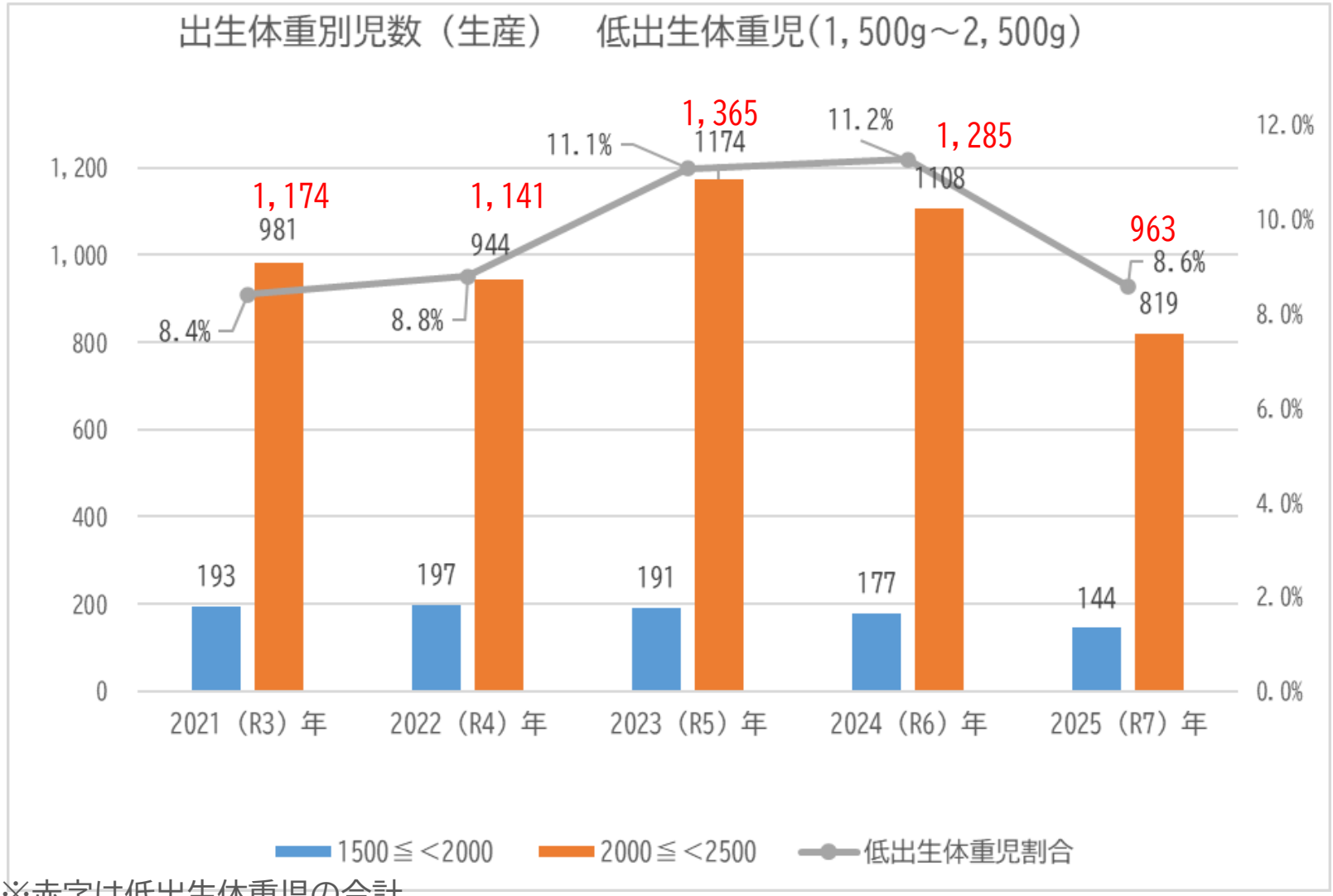
- 令和7年の極低出生体重児は68人で、前年から10人増加
- 令和3年以降、おおむね60人から70人台で推移



3．妊娠２２週以降の診療実績

（９）出生体重別児数（生産）低出生体重児

- 令和7年の1,500g以上2,500g未満の児は963人で、前年から322人減少
- 令和5年に増加した後、2年連続で減少

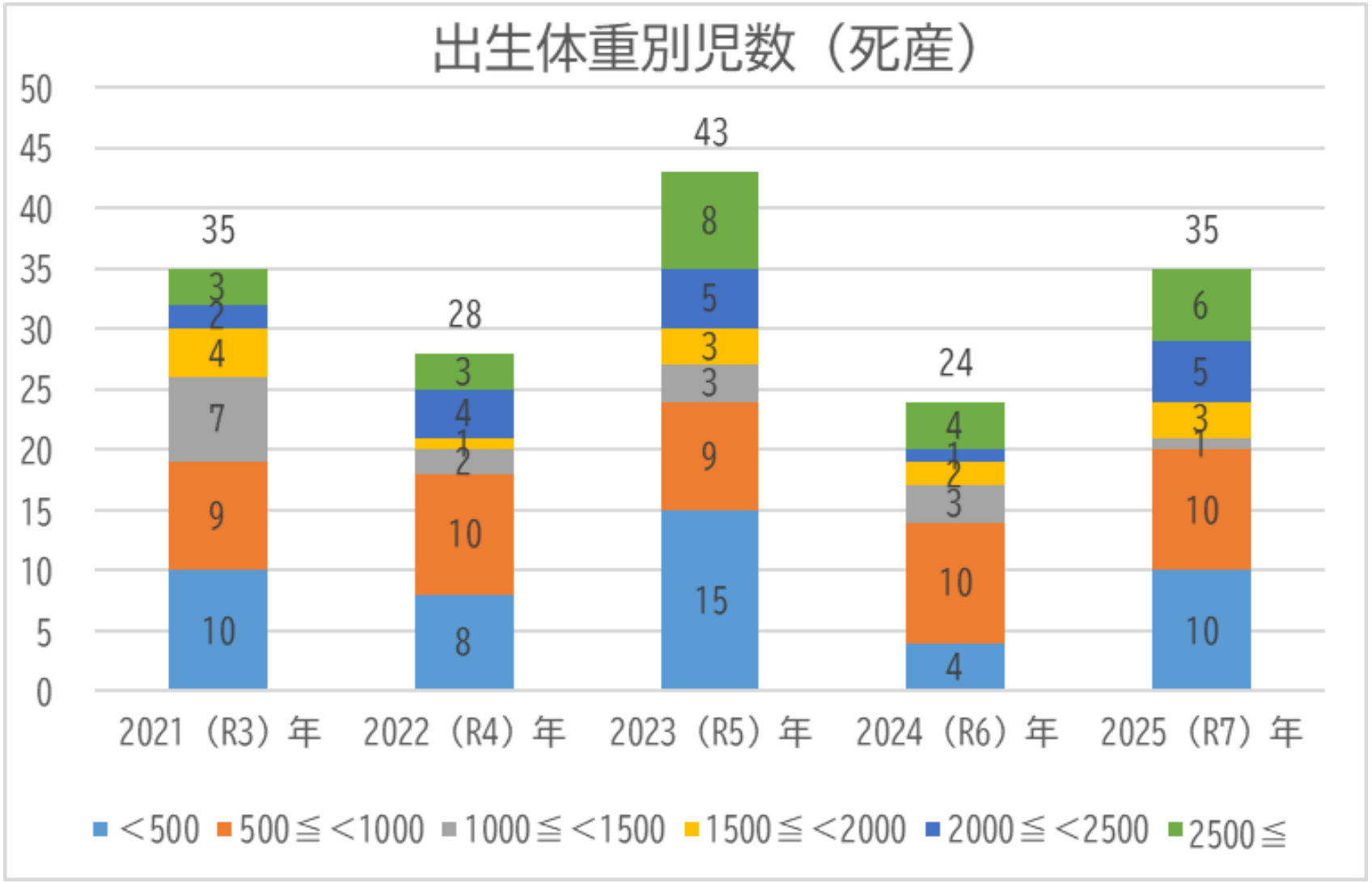


※赤字は低出生体重児の合計

3．妊娠２２週以降の診療実績

（10）出生体重別児数（死産）

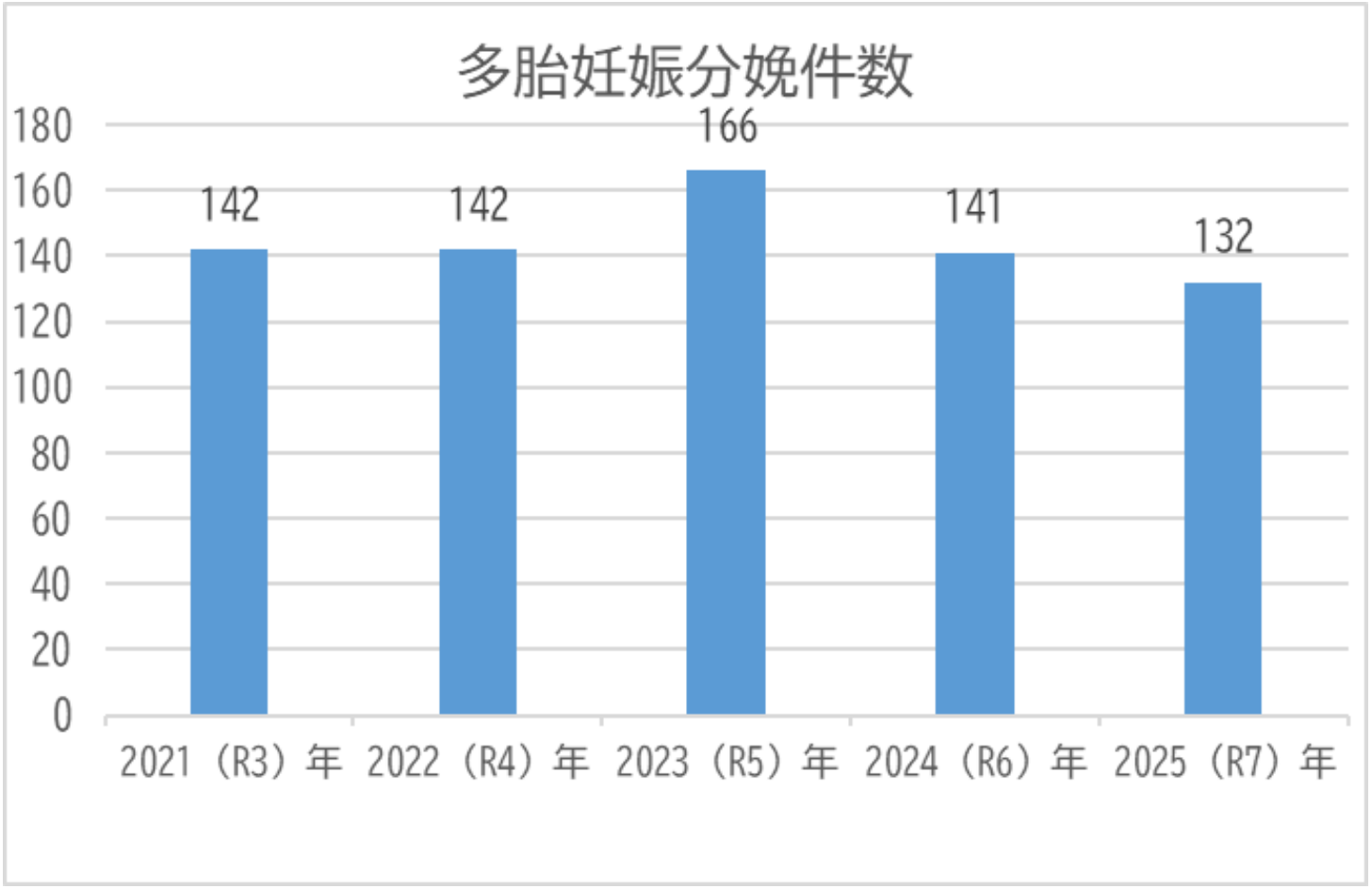
- 令和7年の死産数は35人で、前年から11人増加
- 出生体重別の内訳を含め、年による変動が大きく、一定の増減傾向はみられない



3．妊娠２２週以降の診療実績

（11）多胎妊娠分娩件数

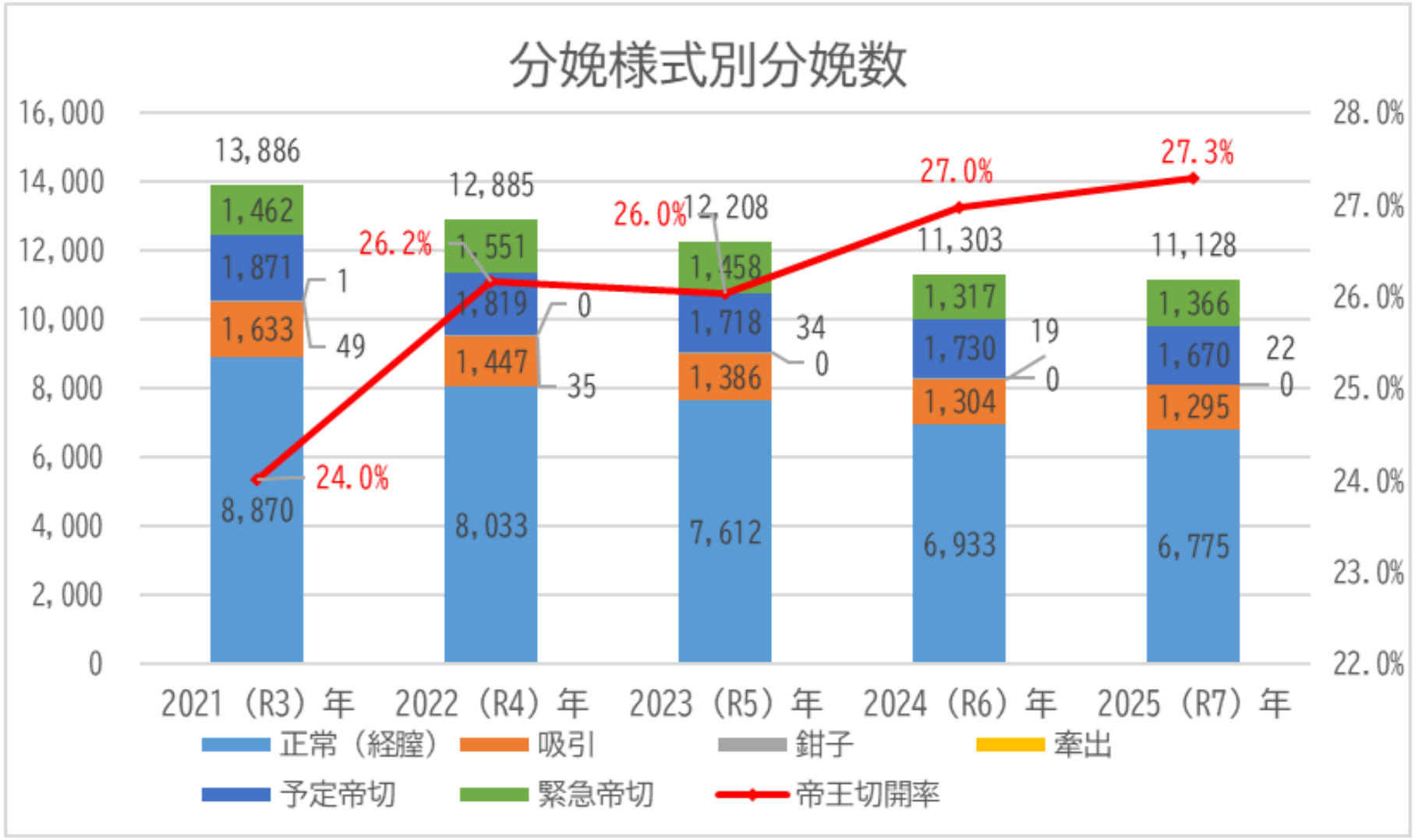
- 令和7年の多胎妊娠分娩件数は132件で、前年から9件減少
- 令和3年から令和4年までは横ばいで推移し、令和5年の増加後は減少



3．妊娠２２週以降の診療実績

（12）分娩様式別分娩数

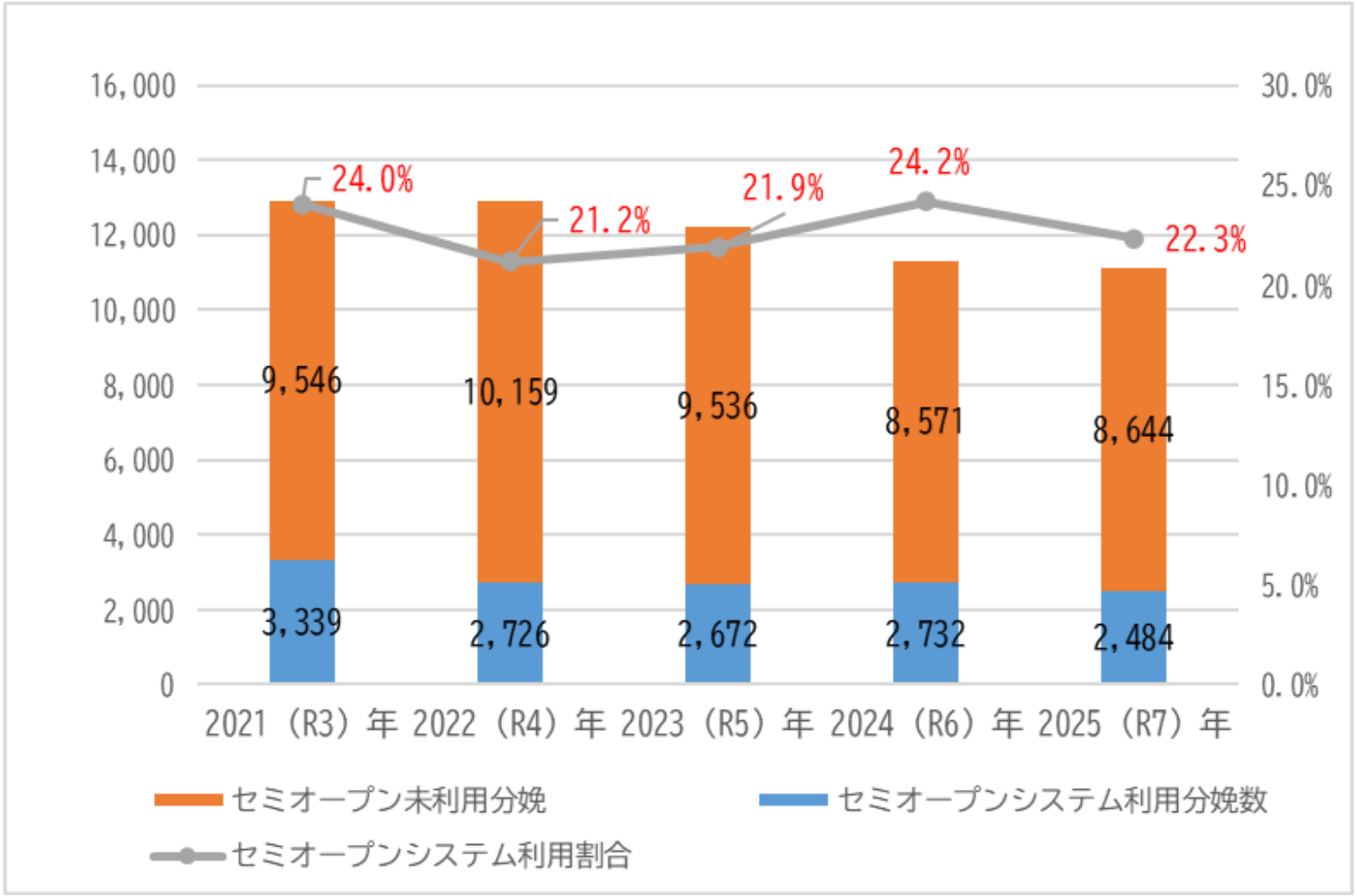
- 令和7年の帝王切開は3,036件で、前年と同程度
- 一方、分娩件数全体が減少していることから、帝王切開率は27.3%に上昇



3．妊娠２２週以降の診療実績

（13）産科セミオープンシステム利用による分娩件数

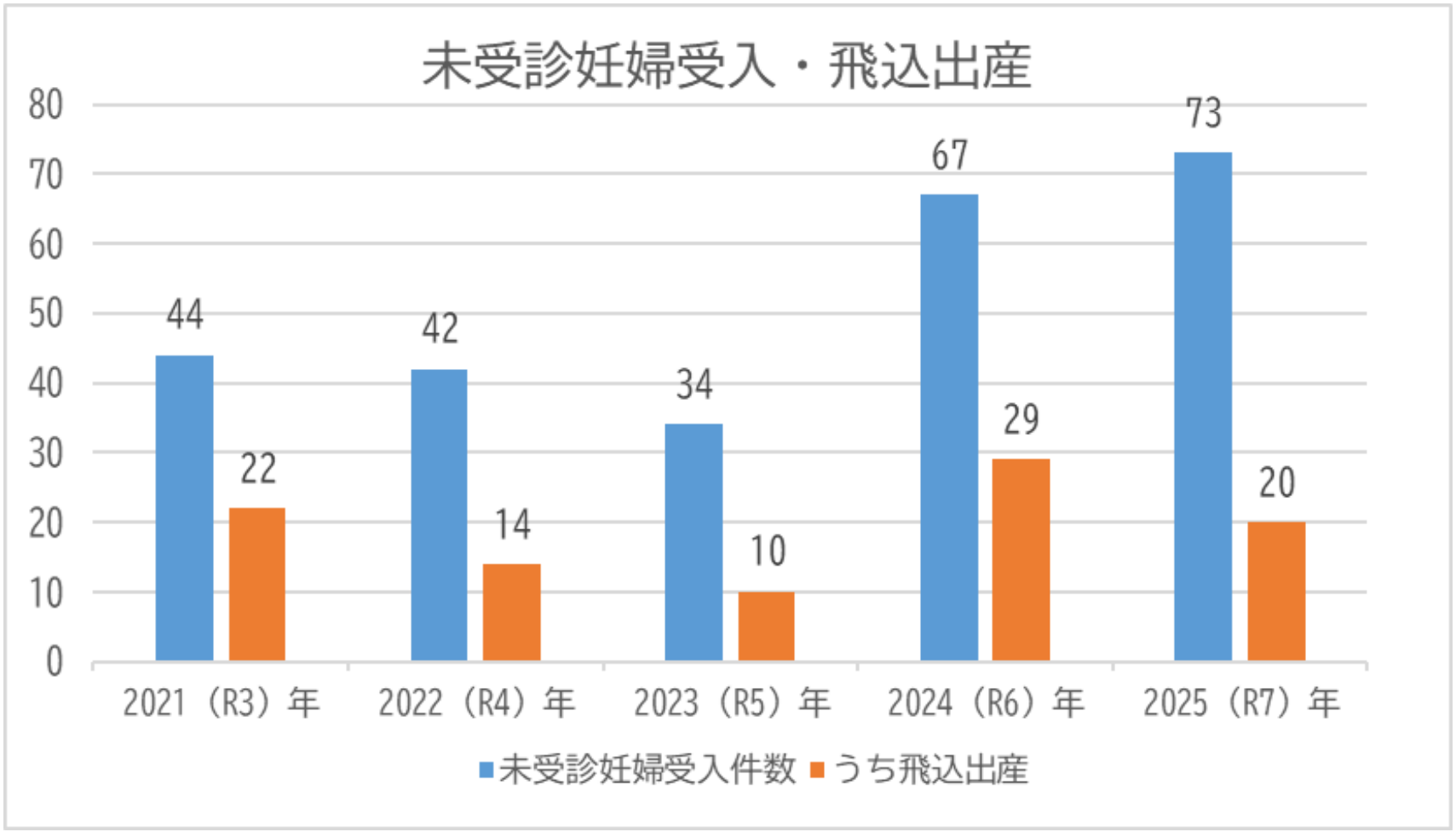
- 令和7年の利用分娩件数は2,484件で、前年から248件減少
- 全分娩件数に占める割合は22.3%で、令和3年以降、おおむね2割台で推移



3．妊娠２２週以降の診療実績

（14）未受診妊婦受入数

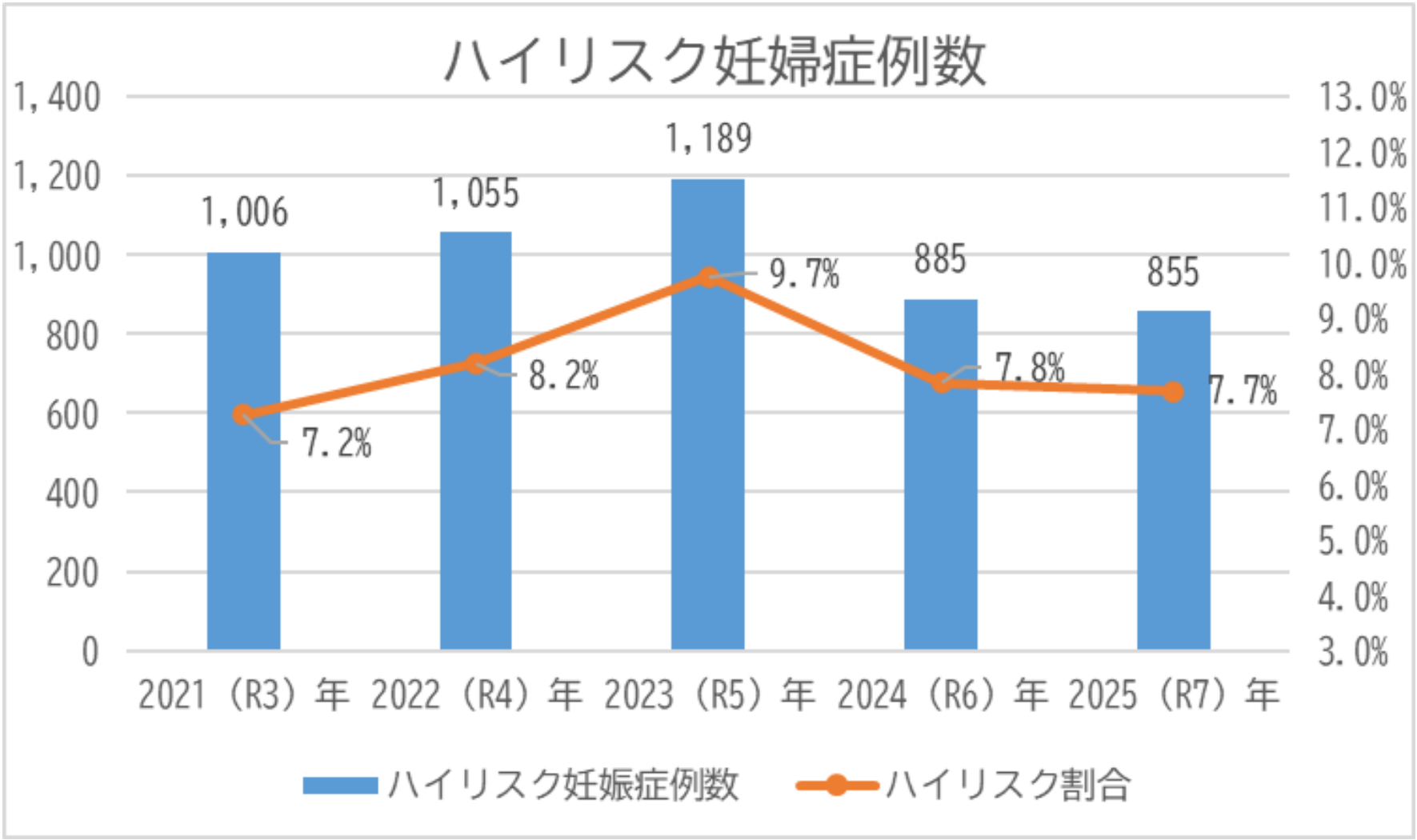
- 令和7年の未受診妊婦受入件数は73件で、2年連続で増加
- このうち飛込出産は20件で、前年度から減少したものの、年による変動がみられる



3．妊娠２２週以降の診療実績

（15）ハイリスク妊婦症例数

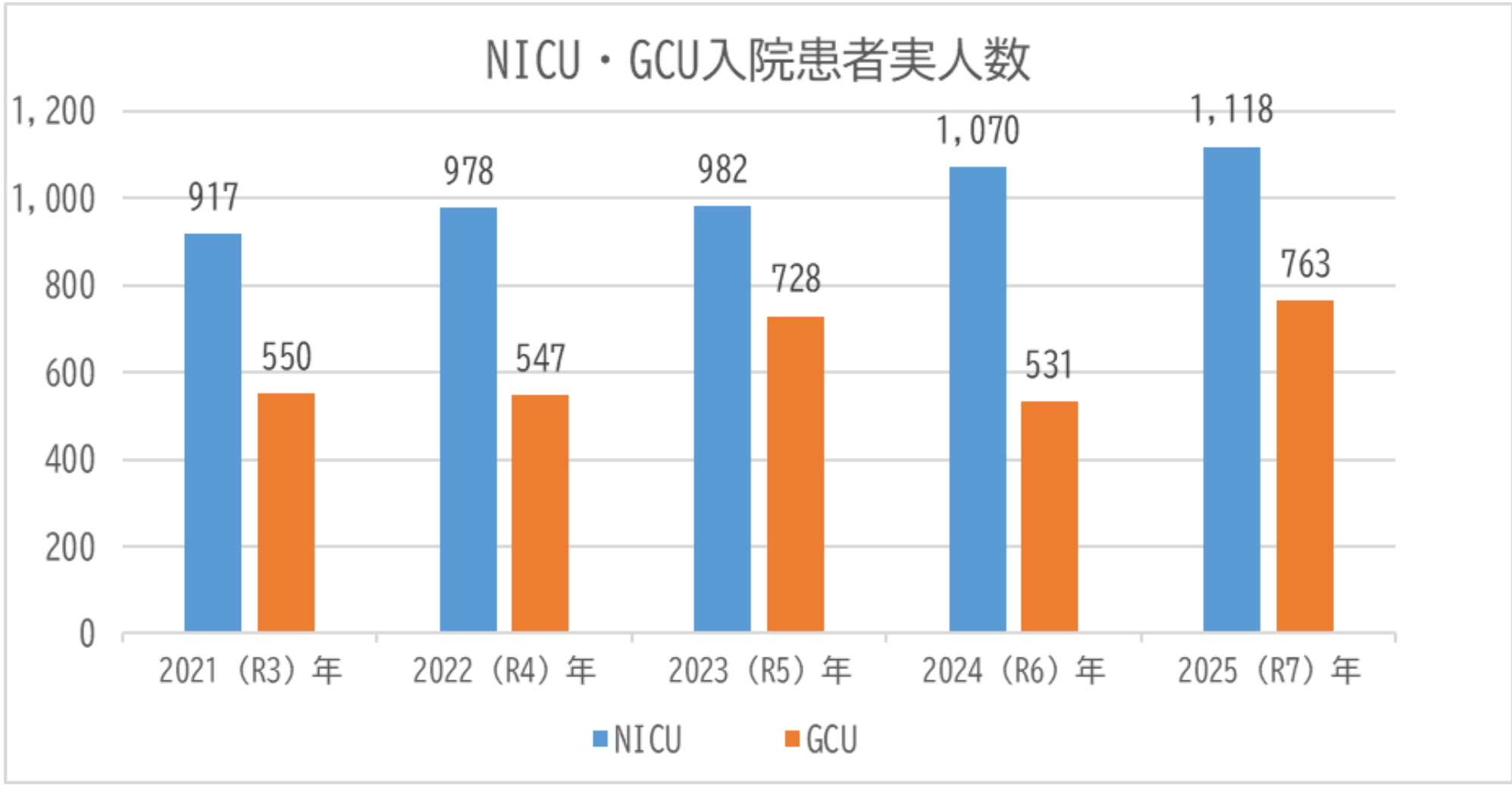
- 令和7年のハイリスク妊婦症例数は855件で、2年連続で減少
- 一方、全分娩件数に占める割合は7.7%で、令和6年と同程度



3．妊娠２２週以降の診療実績

（16）NICU・GCU入院患者実人数

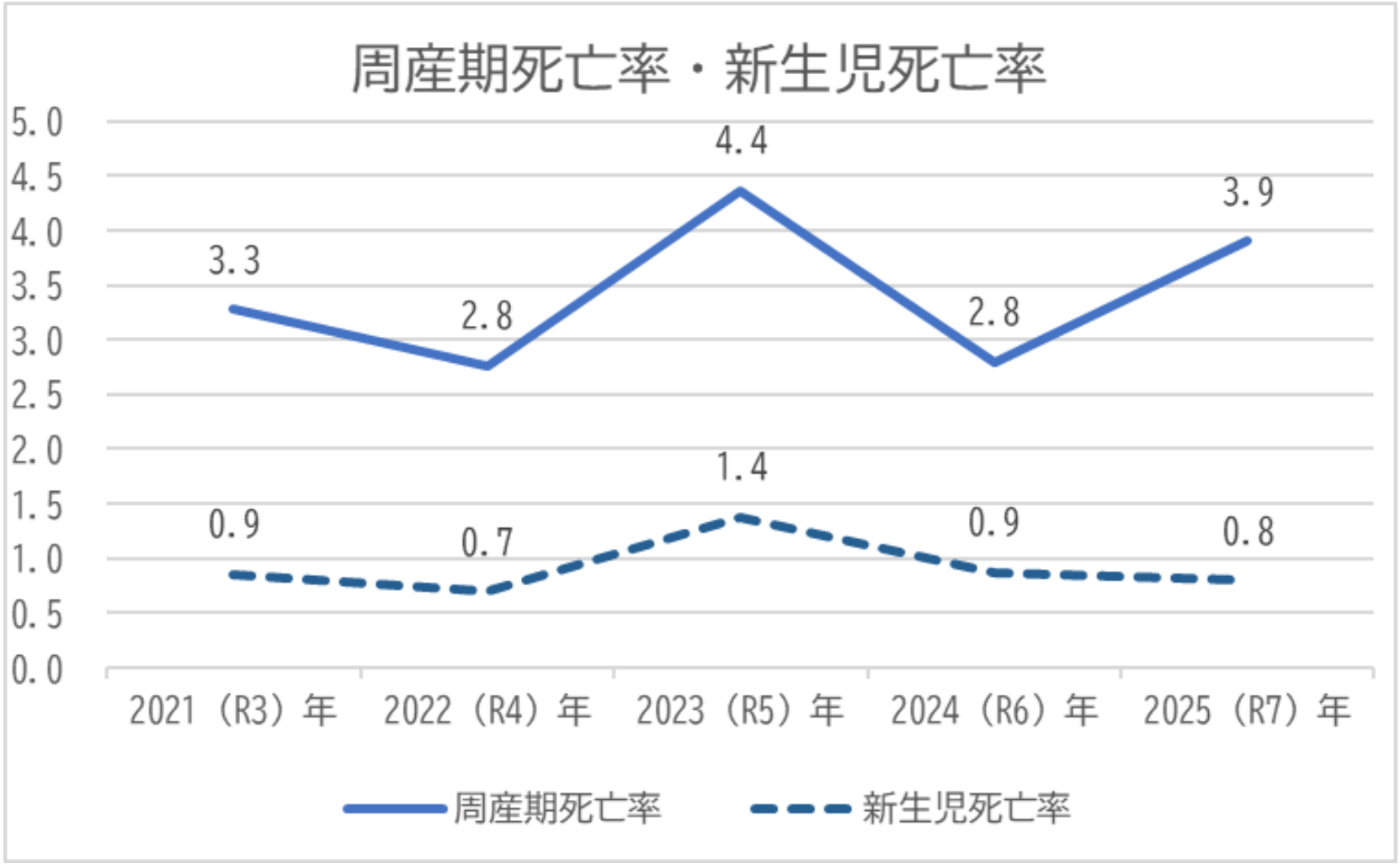
- 令和7年の入院患者実人数は、NICUが1,118人、GCUが763人
- NICU入院患者は令和3年以降、全体として増加しており、GCUは年による変動がみられる



3．妊娠２２週以降の診療実績

（17）周産期死亡率・新生児死亡率

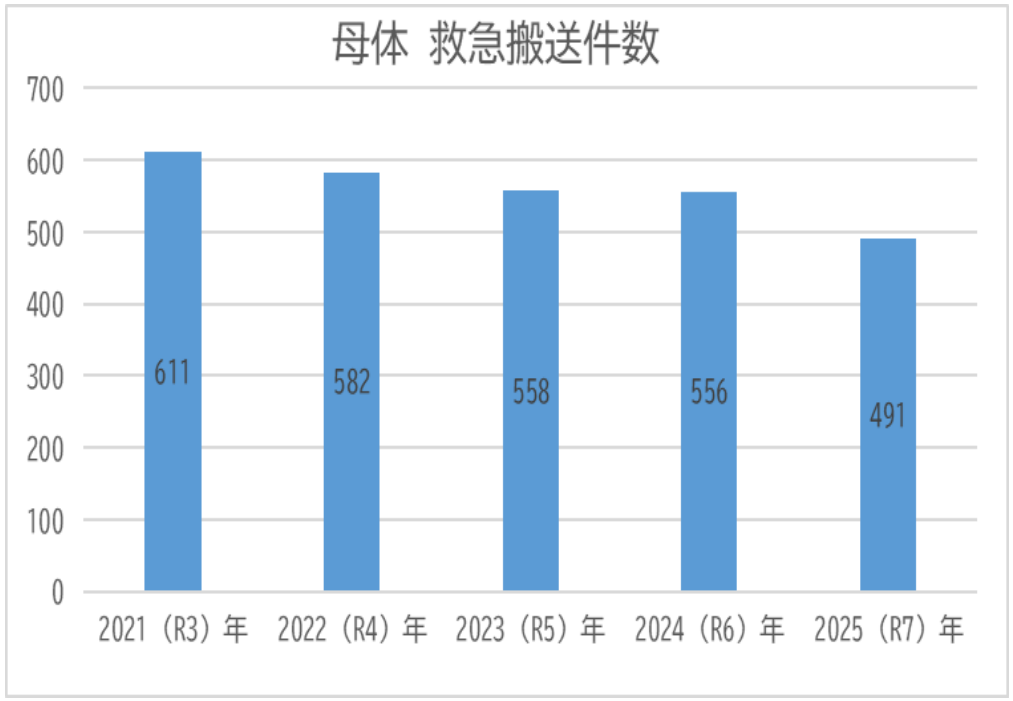
- 周産期死亡率は年による変動が大きく、一定の増減傾向はみられない

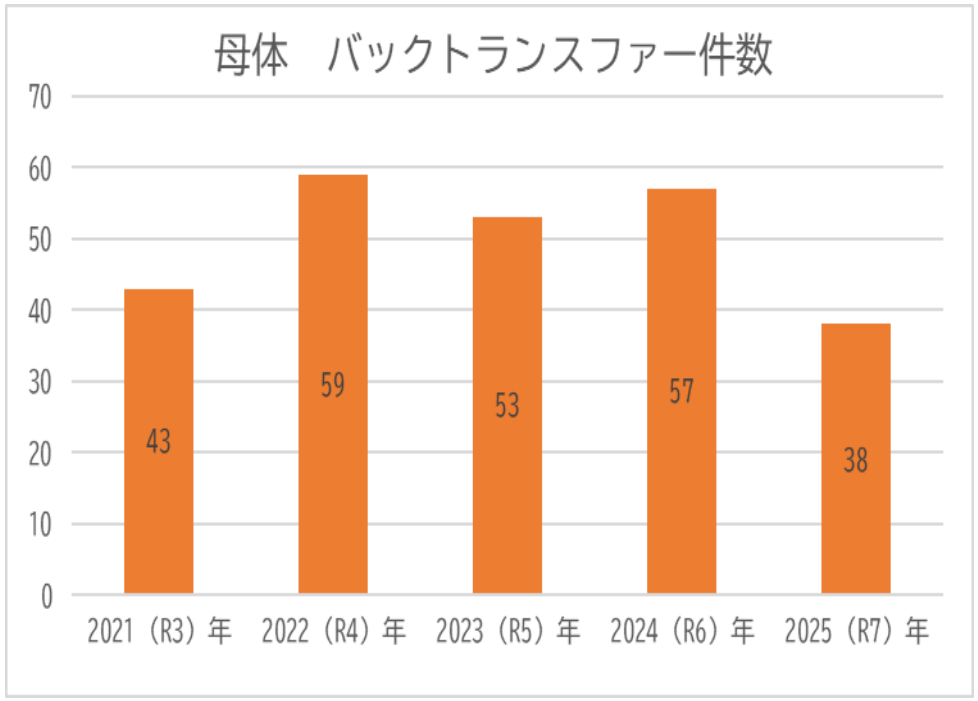


4．救急搬送状況

（１）母体救急搬送件数

- 令和7年の母体救急搬送受入件数は491件で、前年から65件減少
- 受入件数は近年おおむね横ばいで推移していたが、令和7年は減少

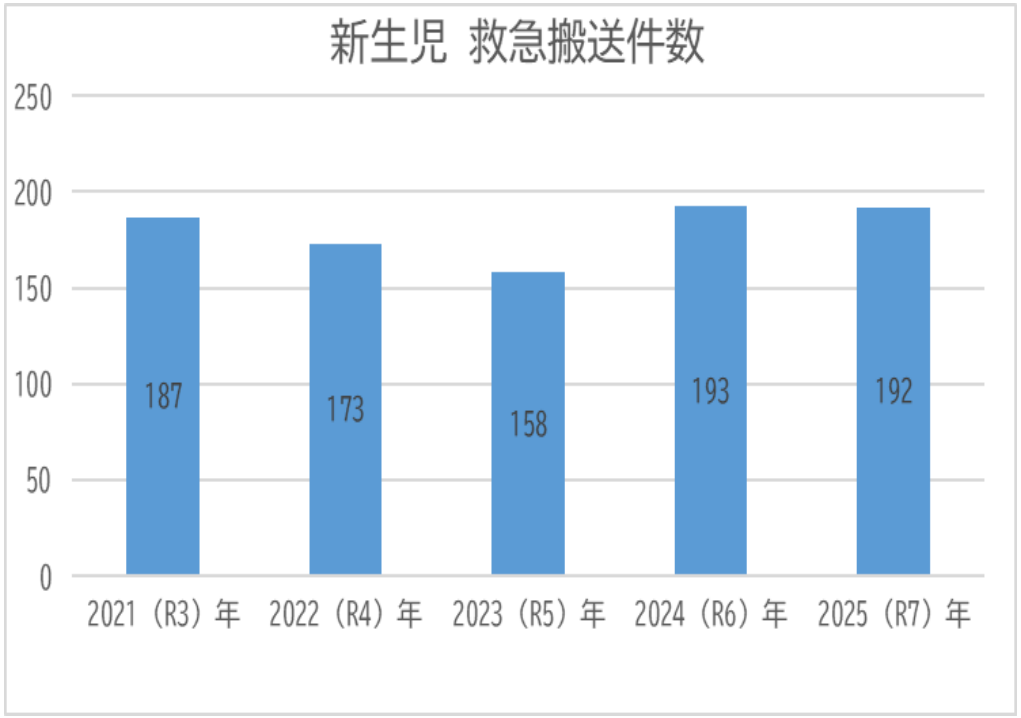


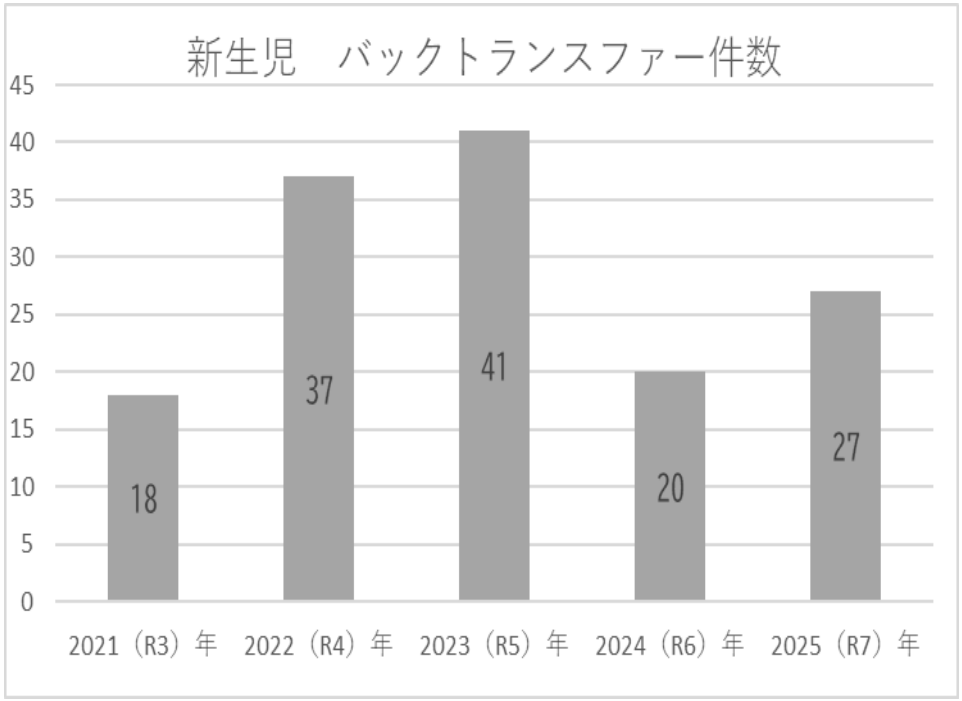


4．救急搬送状況

（２）新生児の救急搬送件数

- 令和7年の新生児救急搬送受入件数は192件で、前年と同程度
- 令和5年まで減少した後、令和6年以降は190件台で推移





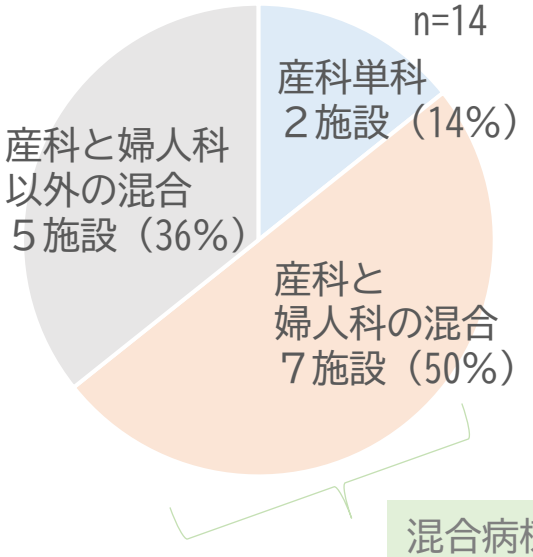
5．産科混合病棟の現況

産科混合病棟の現況・産科区域管理の実態

※総合・地域周産期母子医療センター（９施設）及び分娩取扱病院（５施設）を対象に調査

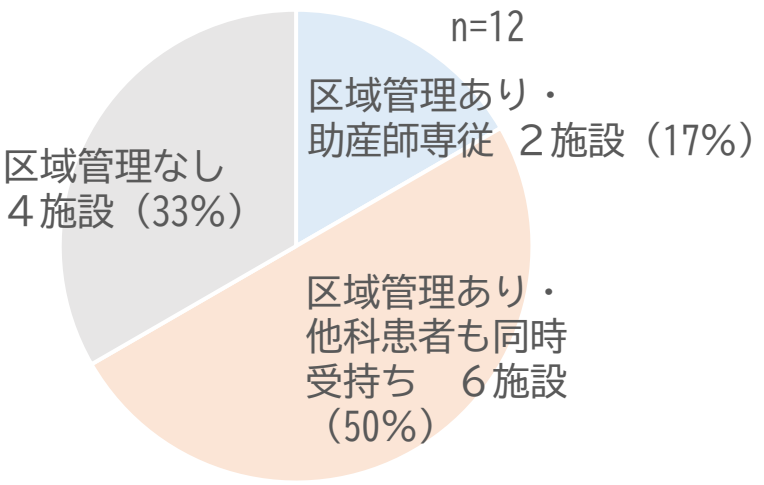
- 調査対象14施設のうち12施設が混合病棟であり、このうち産科区域を設けている施設は8施設
- ただし、区域管理を行っている8施設のうち6施設では、助産師が他科患者も同時に受け持っている
- 産科管理加算は6施設が算定済みで、4施設が検討中

産科混合病棟の状況

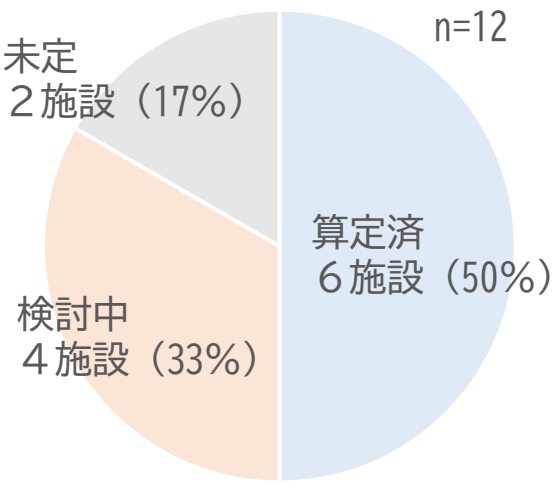


混合病棟12施設（86%）

混合病棟の産科区域管理の実態



産科管理加算の算定状況



産科混合病棟における産科以外に入院する診療科（複数回答可）

診療科	回答数	診療科	回答数	診療科	回答数	診療科	回答数
婦人科	11	外科	2	呼吸器外科	1	腎臓内科	1
内科	2	口腔外科	2	消化器外科	2	内分泌内科	1
小児科	2	乳腺外科	1	眼科	1	耳鼻咽喉科	1

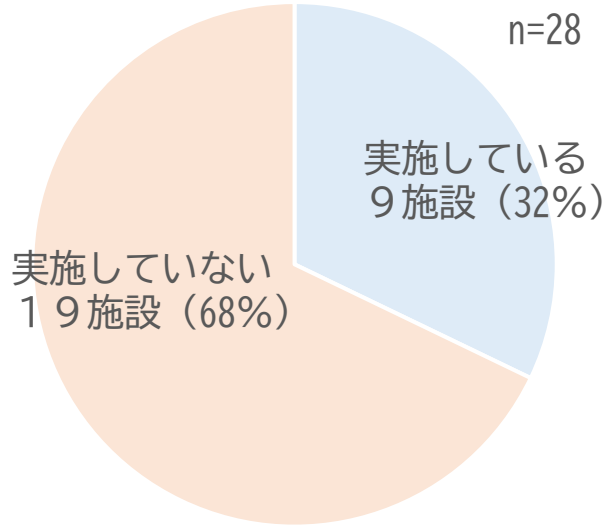
6．助産師外来・院内助産

助産師外来・院内助産の実施状況

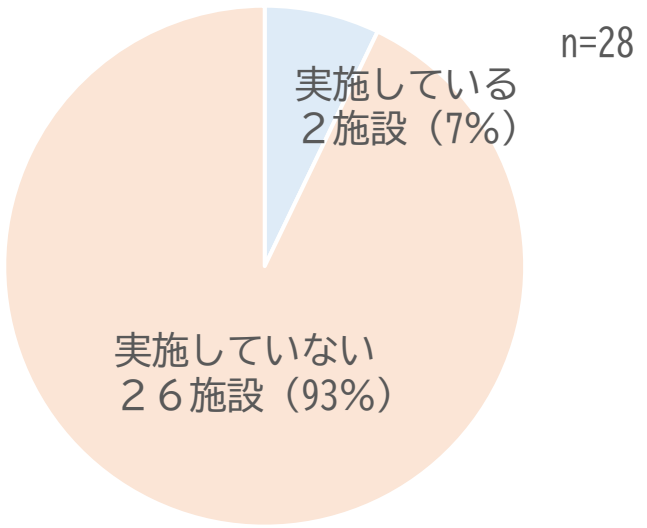
※助産所を除く分娩取扱施設（２８施設）を対象に調査

➢ 助産所を除く分娩取扱施設28施設のうち、助産師外来は9施設、院内助産は2施設で実施されている

助産師外来の実施状況（R8.4.1）



院内助産の実施状況（R8.4.1）



※助産師外来とは
（出典：厚生労働省 院内助産・助産師外来ガイドライン2018）
①緊急時の対応（産科セミオープンシステム等、連携体制も含む）が可能な医療機関において、
②助産師が産科医師と役割分担をし、
③妊産褥婦とその家族の意向を尊重しながら、
④健康診査や保健指導を行うこと
と定義されています。
ただし、産科医師が健康診査を行い、保健指導・母乳外来等のみを助産師が行う場合はこれに含みません。

※院内助産とは
（出典：厚生労働省 院内助産・助産師外来ガイドライン2018）
①緊急時の対応（産科セミオープンシステム等、連携体制も含む）が可能な医療機関において、
②助産師が妊産褥婦とその家族の意向を尊重しながら、
③妊娠から産褥１か月頃まで、
④正常・異常の判断を行い、助産ケアを提供する体制
と定義されております。

7．妊婦健診施設（分娩取扱施設除く）施設数・診療件数

- 分娩取扱施設を除く妊婦健診施設は51施設で、44施設から回答
- 回答施設の令和7年妊婦健診実施件数は4,070件で、里帰り出産に係る健診は353件、助産師外来による健診は611件

（1）施設数（R8.4.1）

医療圏	妊婦健診実施施設
仙南	0
仙台	39
大崎・栗原	4
石巻・登米・気仙沼	8
計	51

※未回答の７施設分を除く

（2）診療件数（R7.1～R7.12）

	実施件数	割合
病院・診療所	4,070件	－
うち里帰出産	353件	8.67%
うち助産師外来	611件	15.0%

調査結果の概要

◆みやぎ県南中核病院の分娩再開により、分娩取扱施設及び産科病床数は増加

◆分娩件数は減少する一方、無痛分娩件数及び実施率は上昇

◆全分娩件数に占める周産期母子医療センターの割合が上昇傾向にあり、同センターへの分娩の集約傾向がみられる

◆出生数は減少する一方、NICU入院患者実人数は増加傾向